

## アフリカから教育事情視察のために 9 人の方がいらっしゃいました。

JICAのプログラムの1つとして、アフリカの7ヶ国（カメルーン、ガボン、チャド、ブルキナファソ、セネガル、カーボベルデ）から9人の方が、北海道国際交流センターを通じて高校視察のために遺愛を訪ねてきました。主に教育行政に関わっている方々でしたが、とても良い交流をすることができました。

簡単な学校紹介のあと、高1の『体育』の授業を見学しました。バドミントンの授業でしたが、すぐに打ち解け、生徒とともにバドミントンを楽しみました。さらに高2の生徒の『情報』の授業を熱心に見学し、最後はピーター先生が指導する高3英語科の『外国事情』という授業に参加しました。授業では生徒達がパワーポイントとフランス語で学校紹介の準備をし、わかりやすく説明していました。また、来た方々が1人ずつ日本語で自己紹介し、生徒からの質問に答えていました。イスラム教国出身の方が多く、食生活の違いやラマダーン（断食）の過ごし方などの質問が出ていました。

遺愛では、今年8月末にケニアで働く医師の公文和子さんの講演を聞き、12月から遺愛の体育教師であった多田先生がJICAを通じてザンビアに行くことになったりとアフリカへの関心が高まっています。



2011年11月17日